

米国テキサス州オースティンの全米社会科協議会で 経済広報センターの活動を紹介

—北米社会科教育関係者招聘プログラムフォローアップ—

経済広報センターでは、1980年から毎年、米国・カナダの中学・高校の社会科教員を日本に招聘し、日本の政府、企業、学校などへの訪問機会を提供している。これまでの訪日教員は約700名に上り、40周年を迎えた今年6月にも米国から9名、カナダから1名を招聘した。

今般11月22日から23日までの2日間、米国テキサス州オースティンで開催された全米社会科協議会（NCSS）年次総会に参加した。NCSS年次総会は、毎年秋に開催され、来年100周年を迎える社会科教育関係者の全国大会。米国・カナダの中学・高校の社会科教員や大学の教員などが一堂に会し、政治経済、国際問題などについて情報交換する場となっており、今年度の参加者は約4,000名に上った。

当センターは、ドイツや韓国はじめ各国の政府機関や財団が情報発信する展示会場にブースを設置し、北米中高社会科教員招聘プログラムの参加者を募集した。また、特別セッションにおいて、日本文化やSociety 5.0 for SDGsなどの取り組みを紹介するとともに、これまでの参加者が招聘プログラムの概要や意義を説明した。さらに、NCSS幹部と日米間の人的交流



やデジタル時代の人材育成、教育界と経済界の連携のあり方などについて意見交換を行った。あわせて、これまでの参加者、次年度の参加希望者ならびにオースティンの日米協会や日本人会のメンバーら60名を招きレセプションを開催し、相互交流に努めた。

その後、NCSSの次年度開催地でもあるワシントンD.C.を訪問。日本大使館幹部、日系メディア代表や会員企業関係者と米国の政治経済状況について意見交換を行い、招聘プログラムを含む当センターの活動についても説明した。また、日本のプレゼンスを高める観点から、来年のNCSS年次総会の活用に向けた連携についても話し合った。

以上